

四月も後半になりました。学生の方でしたら、入学式や始業式などがあり、社会人になられた方でしたら入社式など、新たな出会いがあった事でしょう。人は、さまざまな出会いを繰り返して生きて行きます。

お釈迦さまが、まだシャカ族の王子だった頃のお話です。

ある日、お釈迦さまは郊外で過ごそうと東の門より王宮を出ました。すると、白髪<sup>はくはつ</sup>で腰が曲がり、歯が抜け落ち、身体<sup>からだ</sup>が震えている「老人」に出会います。それまでそのような老人を見たことが無かったお釈迦さまは、お付きの者に「あれは何者か」と尋ね、誰もやがては老いて同じようになることを知ります。

後日、南の門より王宮を出ると、今度は苦痛にもだえ倒れる「病人」に出会います。お付きの者に尋ね、誰もやがては病気にかかってしまうことを知ります。

さらにまた後日、西の門より王宮を出ると、人々が亡骸<sup>なきがら かそう</sup>を火葬に付す準備をしている場面に出会います。そして、誰もやがて必ず亡くなることを知ります。

この出来事を通して、お釈迦さまは「生まれたものに、老いること、病<sup>やまい</sup>になること、亡くなること<sup>な</sup>があるのならば、生まれることもまた、自分の思いどおりにならない苦しみである」と考えるようになります。

そしてある日、北の門より王宮を出ると、出家修行者に出会います。そしてその人に何を<sup>しゅつげしや</sup>する者なのか尋ねると「私は出家者です。正しい修行生活を行い、多くの命あるものに慈悲にもとづく行いをする者です」と答えます。この答えを聞いたお釈迦さまは、老いること、病になること、亡くなること、そして生まれることという、思い通りにならない苦しみを脱する生き方なのではないかと心<sup>こころひ</sup>惹かれ、次第に出家し修行することを望むようになります。

これが、お釈迦さまが出家をするきっかけとなった“出会い”のエピソードです。

常に出会いを重ねている私たち……。何度も会う方もいるかもしれませんが、一度きりの方もいます。一瞬だけの出会いもあります。「すべての出会いがこの一度きりかもしれない。この人と会うのは、この友人と会うのは今日この時が最後になるかもしれない」と受け止めると、一つ一つの出会いと丁寧<sup>ていねい</sup>に向き合えるようになるのではないのでしょうか。

たくさんの出会いの中で、人生を変える出会いに気づく時があるかもしれません。

— 終 —